

ディスクロージャー誌

平成22年度上半期

淡路日の出農業協同組合

住所 兵庫県淡路市志筑3112-14

電話 0799-62-6200(代)

目 次

ごあいさつ	
JAのプロフィール	1
1. 経営理念	2
2. 経営方針	2
3. 事業活動のトピックス	3
4. 農業振興活動	4
5. 地域貢献情報	4
6. 事業の概況(平成22年度上期)	6
(1)事業実績の推移	7
(2)有価証券の時価情報	7
(3)自己資本比率(単体)	7
7. 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況.....	8

ごあいさつ

日頃、皆さまには格別のご愛顧をいただき厚くお礼申し上げます。

JA淡路日の出は、情報開示を通じて経営の透明性を高めるとともに、当JAに対するご理解を一層深めていただくために、当JAの主な事業の内容や組織概要、経営の内容などについて、利用者のためにわかりやすくまとめた「ディスクロージャー誌平成22年度上半期」を作成いたしました。

皆さまが当JAの事業をさらにご利用いただくための一助として、是非ご一読いただきますようお願い申し上げます。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

淡路日の出農業協同組合
代表理事組合長 石 田 正

プロフィール(平成22年9月末)

設 立	平成5年10月1日(6JA合併)
本店所在地	兵庫県淡路市志筑3112-14
出 資 金	18億円
総 資 産	2,035億円
組 合 員 数	14,150名
役 員 数	21名
職 員 数	309名
支店・事業部数	11支店・2事業部

記載した計数は単位未満を切り捨て表示していますので、合計と一致しない場合があります。

1. 経営理念

当組合は、洲本市・淡路市を事業区域とした都市的農村地帯で、農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助を共通の理念として運営される協同組織であり、地域農業の活性化に資する地域金融機関です。

当組合の資金は、その大半が組合員および地域住民の皆さまなどからお預かりした大切な財産である「貯金」を源泉としております。当組合では資金を必要とする組合員および地域住民の皆さま方や、地方公共団体などにもご利用いただいております。

当組合は、地域の一員として、農業および地域の発展と健康で豊かな地域社会の現実に向けて、事業活動を展開しています。

また、JAの総合事業をつうじて各種金融機能・サービスなどを提供するだけでなく、地域の協同組合として、組合員の「営農と暮らし」を守り、食料の安全性の確保、環境保全・地域社会への貢献という社会的使命を果たすための諸活動を展開しています。

JA淡路日の出は、安全・安心・安定を共有し、「農」と「生」の世紀づくりに取り組みます。

JA淡路日の出は、農業振興を通じて、「食」と「農」と「緑」を守り、かけがえない自然を次世代に引き継ぎます。

JA淡路日の出は、地域の皆さまとともに生き、地域の皆さまとの共感の中で、心ふれあう地域づくりに取り組みます。

JA淡路日の出は、高い倫理観と責任感を持ち、地域社会に貢献できる事業と組織づくりに取り組みます。

2. 経営方針

農業振興と地域社会への貢献

農業をめぐる環境は農業従事者の高齢化等極めて厳しい状況になっています。JAは、地域農業の特性を活かした基本目標を設定し、これらの実践を通じて農家所得の向上、地域の活性化等が求められます。当JAは、「夢と活力ある農業・地域社会」の実現のため、地域特性を活かした農業振興と心のゆたかさを実感できる生活環境の提供に努めます。

組合員と消費者の満足度向上

JAは、日常生活のあらゆる場面に密着した事業を営んでいます。各種商品やサービスが多様化・高度化するなかで、利用者ニーズは安全・安心でかつ健康志向になってきており、また、ゆとりを重視する傾向がみられます。当JAは、JAが提供するサービスの質を高め、組合員と消費者のニーズに応えた真心のこもった商品・サービスの提供に努めます。

信頼と期待に応える経営

信用・共済事業依存型の収支構造からの変革と、より効率的・効果的な事業運営を徹底し、安全・安心な経営を感じることができる事業運営の確立が必要です。

当JAは、「強靱な経営体質」と「透明感のある組織運営」を構築するため、財務体質の健全性向上につとめ、リスク管理態勢の確立とコンプライアンスを重視した職場づくりに取り組めます。

3. 事業活動のトピックス(平成22年度上期)

月 日	おもな行事
4月1日	新入職員入組式
4月18日	住宅フェア(洲本市文化体育館)
4月23日	たまねぎ生産者大会
5月29日～30日	プロ野球ウエスタンリーグ公式戦「阪神対オリックス」(佐野運動公園)
6月26日	第17回通常総代会
7月30日～31日、8月1日	若トラ応援イベント「阪神タイガース応援ツアー」(甲子園球場)
8月22日	住宅ローン休日相談会(全基幹支店)
8月24日～25日	若トラ応援イベント「阪神タイガース応援ツアー」(京セラドーム大阪)
8月25日	農業用廃プラスチック・ビニール回収
8月27日～28日	ふれあい旅行「富士山五合目と富士山麓名瀑、名水を巡る旅」
9月11日	洲本市畜産共進会(アスパ五色)
9月15日	淡路市畜産共進会(淡路家畜市場)

4. 農業振興活動

JA淡路日の出は、協同組合として組合員の「営農と暮らし」を守り、地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて豊かな地域社会の発展を目指すために、次のような農業振興活動に取り組んでいます。

安全・安心な農産物づくりへの取り組み

生産履歴記帳運動(トレーサビリティ)取り組み、安全・安心な農産物の提供に努めています。

また、各種生産部会を対象に食品衛生法、農薬取締法、ポジティブリスト制度への対応等の研修会を定期的開催しています。

集落営農組織の育成・支援

地域農業の担い手として、集落営農組織の育成・支援をすすめています。

地産地消の取り組み

農産物直売所等を設置し、地域の消費者に地元の新鮮で安全・安心な農産物の提供に取り組んでいます。

食育の取り組み

バケツ稲づくりを通じて田植え、稲刈り等の農作業を体験し、子供たちに食と農の大切さを伝えています。

5. 地域貢献情報

JA淡路日の出は、協同組合活動の原点である「組合員の営農と暮らし」を守り、地域農業の振興に努めるとともに、地域社会の発展に貢献するために様々な活動を展開しています。

1. 社会貢献活動

環境問題への取り組み状況

「地球にやさしい農業」への取り組みとして、定期的に廃プラスチック・ビニール等の回収および不要農薬の回収を実施しています。

2. 地域貢献活動

(1) 地域からの資金調達の状況

貯金残高(平成22年9月末現在)

(単位:百万円)

種 類	残 高
当 座 性	27,879
定 期 性	158,850
小 計	186,729
譲 渡 性	0
合 計	186,729

(2) 地域への資金供給の状況

貸出金残高(平成22年9月末現在)

(単位:百万円)

農 業 近 代 化 資 金	61
そ の 他 制 度 資 金	317
農 業 関 連 融 資	451
事 業 関 連 融 資	13,617
住 宅 関 連 融 資	17,267
生 活 関 連 融 資	920
そ の 他	523
合 計	33,156

(3) 文化的・社会的貢献に関する事項

福祉活動

平成12年度からはじまった介護保険制度の訪問介護事業者の指定を受け、サービスの提供を行っています。また、高齢者への生活介護援助・助け合いなどの活動に取り組んでいます。

職員の地域貢献への参加

職員においては、地域清掃活動や今年度から消防団協力事業所に認定され、積極的に消防団活動に参加し、地域に根ざした活動を実践しております。

スポーツイベントの開催

スポーツを通じて、青少年の健全な育成のための活動を行っています。

6. 事業の概況(平成22年度上期)

わが国経済は、サブプライムローン問題に端を発した未曾有の不況を乗り越え、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に持ち直しが続いています。しかし、海外景気の下振れ懸念や為替レート・株価の変動などにより、景気が下押しされるリスクが強まっており、また、デフレの影響などJAを取り巻く状況は依然として厳しいものとなっています。

農業面では、戸別所得補償制度の本格実施が来年度に控えており、民主党政権が掲げる食糧自給率50%を達成するためにも農業政策の拡充が求められています。

さらに、世界的な穀物の需給ひっ迫と価格高騰や輸入食品の安全性の問題等、食を取り巻く情勢も含め、わが国の食料・農業・農村の存亡にかかわる重大な局面を迎えています。

このような情勢のなか、JAは堅実で健全な経営を基本理念として、次のことに取り組みました。その結果、平成22年9月末日現在の当期剰余金は4億6百万円となり、計画対比168.1%となりました。

1. 信用事業

組合員および利用者に信用・信頼される地域金融機関としての機能の充実に努めるとともに、新規開拓に取り組み、取引先の拡大をはかりました。

この結果、9月末貯金残高は1千8百67億2千9百万円と期首残高に対して101.6%の増加となりました。

また、貸出金は住宅・自動車・教育ローンおよび地方公共団体貸付等の獲得により貸出金実績は、3百31億5千6百万円と期首残高に対して104.5%となりました。

2. 共済事業

組合員とその家族、さらには、地域住民を含めた幅広い普及活動の展開により、長期・年金・自動車・自賠責共済など必要な人に必要な保障の提供をはかる推進活動を展開しました。

この結果、長期共済の新契約高は9月末現在で2百41億4千1百万円の実績となりました。

3. 購買事業

利用者ニーズに応えた安全・安心で適正な商品を提供しました。

その結果、購買品供給高は、9月末現在で15億2千3百万円の実績となりました。

4. 販売事業

生産者部会を中心に、栽培・飼育管理記録簿を徹底し、消費者への食の安全・安心と信頼の確保に努めました。

その結果、販売品販売高は、9月末現在で22億9千1百万円の実績となりました。

5. 指導事業

品質向上に向けた栽培方法やコスト低減に向けた栽培体系の見直し、新たな栽培・防除技術の導入を積極的に行い、将来を担う農業の担い手の育成に努めました。

6. 福祉事業

組合員・地域住民へ行政と連携して福祉事業に取り組み、訪問介護・生活援助事業を積極的に行いました。

(1) 事業実績の推移

(単位:百万円)

		平成22年9月末	平成22年3月末	平成21年9月末
信用事業	貯金	186,729	183,715	182,150
	貸出金	33,156	31,704	26,791
	預金	150,421	147,297	153,048
	有価証券	6,765	6,778	5,629
共済事業	長期共済保有高	565,557	580,028	587,195
	長期共済新契約高	24,141	45,942	26,023
	短期共済新契約掛金	260	580	260
経済事業	購買品供給高	1,523	2,942	1,508
	販売品販売高	2,291	5,328	2,409

(2) 有価証券の時価情報

(単位:百万円)

保有区分	平成22年9月末			平成22年3月末		
	取得価額	時価	評価損益	取得価額	時価	評価損益
売買目的						
満期保有目的	1,010	1,034	24	910	934	24
その他	5,890	5,755	135	5,889	5,868	16
合計	6,900	6,789	111	6,799	6,802	3

- (注) 1. 時価は市場価格等によっています。
 2. 取得価格は取得原価または償却原価によっています。
 3. 売買目的有価証券については、時価を貸借対照表価額とし、評価損益については当期の損益に含めています。
 4. 満期保有目的の債権については、取得価額を貸借対照表価額として計上しております。
 5. その他有価証券については、時価を貸借対照表価額としております。

(3) 自己資本比率(単体)

平成22年9月末	平成22年3月末(参考)
22.55%	21.89%

(新BIS基準による)

新BIS基準とは、平成19年3月期より適用されることになった金融機関の新しい自己資本比率計算上の基準であり、資産の分類にかかる国際的な取り決めです。

7. 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況

(単位:百万円、%)

債権区分	平成22年9月末	平成22年3月末
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	25	33
危険債権	16	121
要管理債権	54	30
小計(A)	95	184
保全額(合計)(B)	95	184
担保	11	25
保証	72	145
引当	12	14
保全率(B/A)	100.00	100.00
正常債権	33,105	31,566
合計	33,200	31,750

(注)1. 上記の債権区分は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」(平成10年法律第132号)第6条に基づき、債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として次のとおり区分したものです。

破産更正債権及びこれらに準ずる債権

法的破綻等による経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

危険債権

経営破綻の状況にはないが、財政状況の悪化等により元本及び利息の回収ができない可能性の高い債権

要管理債権

3ヵ月以上延滞貸出債権(元金又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸出債権)及び貸出条件緩和貸出債権(経済的困難に陥った債務者の再建又は支援をはかり、当該債権の回収を促進すること等を目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った貸出債権)

正常債権

上記以外の債権

(注)2. 平成22年3月末から9月末までの間に、債務者区分の変更が必要と認識した先については、9月末時点の債務者の状況に基づき債務者区分を変更し、各債権額は平成22年9月末時点の残高に修正しています。



JA淡路日の出